

地元を元気にしようと住民たちが集い語り合う「但馬de元気カフェin浜坂」がこのほど、新温泉町浜坂の浜坂多目的集会施設で開かれた。NPO代表に

浜坂

よる講演もあり、町内外から参加した住民ら約40人は熱心に耳を傾けた後、地域の未来像についてお互いの思いを語り合った。(風斗雅博)

1/23 ④

若者呼び込み まちを元気に

住民ら40人 未来像を論議



若者の就労や震災避難者の支援などを行う宝塚NPOセンター(宝塚市)が20日、開いた。これまで新温泉町七釜や香美町小代区でも実施しており、浜坂では昨年12月10日に続いて2回目の開催となった。

この日は初めに、鳥取県で学生ボランティアなどを行うNPO法人「学生人材バンク」の田中玄洋代表(32)がスライドを使い講演。農村ボランティアや自主イベントなど具体的な活動内容を説明し、住民視点から学生に対するアプローチの方法などを紹介した。

模造紙に意見を書き込みながら話し合う参加者ら。浜坂多目的集会施設

「ネット活用を」「話し合い頻繁に」

その後行われたワークショップでは、参加者が5、6人のグループに分かれ、町の将来に関する複数のテーマについて議論。テーブルに置かれた模造紙に考えを書き込みながら意見を交わした。グループを入れ替えながら話し合いを繰り返した後、「自分たちがやるべきこと」をテーマに掲げると、「若い人を呼び込むためネットを活用した仕事ができる環境をつくる」「こういう話し合いの場や機会をつくっていく」など声が上がった。

2年前に名古屋からUターンして帰ってきたという会社員の岡坂悠輝さん(27)「同町浜坂は「初めて参加したが、もっと時間をかければ深い話ができると思う。周りの知人ともこういう取り組みをしていきたい」と話していた。